

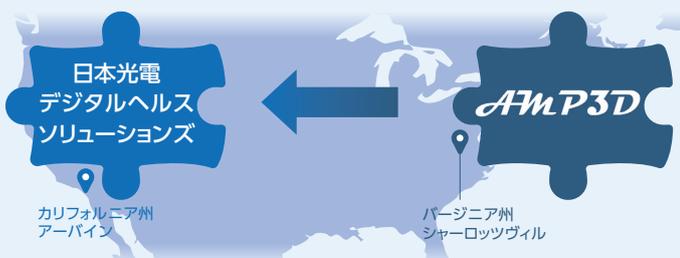
米国の子会社である日本光電デジタルヘルスソリューションズ[※]は、2021年8月、AMP3D(アンプスリーディ)社の株式を100%取得し、日本光電グループに迎え入れました。

※役割をより明確にし、2021年4月にNKUSラボから社名変更。

AMP3D社について

正式名称: **A**dvanced **M**edical **P**redictive **D**evelopments,
Diagnos**t**ics and **D**isplay**s**, Inc.

所在地: 米国バージニア州シャーロットツヴィル



AMP3D社は、バージニア大学循環器内科教授のRandall Moorman氏によって2013年に設立され、患者さんの容態変化を予測するアルゴリズムの研究開発を行っています。同社が開

発しているソフトウェアCoMET[®]は、患者さんの様々なデータ(生体情報、検査データ、電子カルテデータなど)を独自のアルゴリズムで分析・解析し、容態変化の兆候があるかどうかを可視化して表示します。医療従事者の早期介入の意思決定をサポートすることで、急変・重症化の回避につながると期待しています。



▲AMP3D社が開発しているソフトウェア CoMET[®]の表示イメージ

※CoMET: Continuous Monitoring of Event Trajectories(容態変化の連続的モニタリング) 米国のみで販売。

デジタルヘルスソリューション事業の確立に向けて

長期ビジョンの実現に向けて、2021年4月にスタートした中期経営計画「BEACON 2030 Phase I」では、デジタルヘルスソリューション(DHS)を新規事業と位置付け、積極的な研究開発投資を推進しています。AMP3D社の獲得はその重要な一手です。日本光電のコア技術であるHMI技術[※]と、AMP3D社のアルゴリズムおよびソフトウェア技術の融合により、DHS分野における技術開発力の強化および革新的な解析アルゴリズム開発の加速が期待できます。また、米国では、患者さんの生体情報や医療機器の情報を活用した容態変化の予知・予測といった研究が進んでいるため、AMP3D社を通じて現地開発体制の強化、先端的な研究機関との連携強化を図ります。

日本光電は、DHS事業の確立を通じて、医療現場に蓄積される患者データを利活用したソリューションを提供し、患者アウトカムと医療経済性の向上に貢献するというビジョンの実現を目指します。

Harsh Dharwadのコメント

日本光電デジタルヘルスソリューションズ
President and CEO /
AMP3D社 President and CEO



私たちは、デジタルヘルス技術をもとに、医療の質と効率性を高めた次世代型の医療インフラの構築に取り組んでいます。医療の未来は、データに基づくアプリケーションを活用して容態の変化を予測することにあります。AMP3D社の買収により、日本光電は業界を変革する先駆者となることを目指します。

※HMI(ヒューマン・マシン・インターフェース): 人間と機械との接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称。

IRグループからのお知らせ

日本光電へのご理解をより一層深めていただけるよう、ウェブサイトでの情報発信やオンラインIRイベントの企画に取り組んでいます。是非、ご覧ください。

「動画で知る 日本光電」シリーズ 第4回、第5回を掲載



地域別構成と成長戦略

https://www.nihonkohden.co.jp/ir/investor/investor_movie04.html



株主還元とサステナビリティ

https://www.nihonkohden.co.jp/ir/investor/investor_movie05.html



日本光電レポート2021(統合報告書)を発行



<https://www.nihonkohden.co.jp/ir/material/pdf/NKReport2021.pdf>

